

講義名	グローバル競争論					授業形態	
担当教員	李 東浩	開講期・曜日・時限		後期 火曜日 4 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

本授業は双方向・多方向的な授業である。

本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」を考える学習型授業教育法を実施する。

本授業の実施方法の詳細について以下を参照してください。
李東浩（2017）『学生の心を掴みきけた教育—教育学双方の意識転換によるアクティブラーニング—』『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号 pp.75-104（30頁）。
ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について以下を参照してください。
李東浩（2018）『学部ゼミ運営に関する一考察—「楽しく頑張る」から「はつとぐり」—』、『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第3号 pp.1-19（19頁）。
大学教育改革に関する論文も公開しており、以下を参照してください。
李東浩（2022）『大学教育の進化と変革—サービスプロの活用とコロナ対策のオンライン教育の実像—』、『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第7号 pp.119-134（16頁）。
李東浩（2023）『学習能力の形成と進化—知の定着、深化と探索のパラダイム—』、『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第8号 pp.107-121（15頁）。
真面目な学生・本質に勉強の意欲がある学生は強く勧める。
毎回、面白いビデオがある。

到達目標

1. 履修生は、グローバル競争論を理解するものにとて当然知っておくべき知識を習得できるようになる。グローバル競争論の基本理論を紹介するとともにケーススタディ（事例研究）をも採り上げるので、理論と実例をバランスよく理解できるようになる。
2. 履修生は、本講義を学修することによって、日常に企業に触れたり、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて、グローバル競争的な側面から評価し、レポートにまとめることができるようになる。
3. 本授業で得られたグローバル競争論の理論とケースの知識・能力を身につけ、初歩的なグローバル競争に関する経営計画を作成できるようになる。

具体的に、
 (1)知識・能力・資格を身につける。
 本授業を通じて、グローバル化がもたらしつつある中で、歴史的に世界のリーダー格になった、なりつつある国々及び地縁的な巨大な影響力を有する国々の過去・現在・将来を地政学・経営学・経済学・社会学から多角的に考察できるように、受講者の正しい世界観・歴史観・国際関係観を形成できるようにする。
 (2)思考力・判断力・表現力を向上させる。
 論議的授業を通して、授業の討議を通じて、各、毎回の授業に実案例を多く取り上げ、ビデオも活用しながら、理論と実例をバランスよく理解できる。ただ単に授業内容とビデオを聴く・見ただけではなく、考えて、判断、討論、発表、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで毎回、ビデオが身に付けるところを意図できるようにする。

提出課題

1. 各自事前に、最低でも以下4つを使用できるように準備しておいてください。
 リュウカポータル及び、
 アドミッションメール(look mail + 及び、
 レスポンス及び、
 マイクラウドTeamsアプリ、
 などの使用方法を熟知、理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。
2. 全員、授業開始前までに、授業専用Teamsグループに必ず参加してください(事前連絡あり)。
 参加しない、または遅延した場合は、すべてのプリント資料やビデオ説明内容、課題通知等の情報を手きないし、
 当然、単位を修得できないという。
3. 毎週、単位修得課題と期末試験(3日間・ビデオ課題提出式)の提出があるので、作成要領等の指示に従い、〆切期間中に提出してください。
 ただし、単位判定対象となるのは、期末試験の1百分のみである。
4. それ以外の内容は、レスポンス課題は自由選択となる。成績に影響を与えない。
 ただし、成績の自由選択の項目は、成績の自由選択の項目に属する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

1. 毎回、前回課題へのフィードバックと振り返りを解説する。
優れた提出内容や改善してほしい内容等をマーカーや色付けで強調して表彰や注意喚起をする。
モチベーションアップにつながるだろう。
2. 毎回、全体的な状況や一部代表的な課題を見本として提示する。
双方向・多方向的な考えや学習型授業の醍醐味を理解して、互いに勉強しよう。
3. 毎回、自分の学習成果のチェックだけでなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認できる、PDCAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できる。

評価の基準

1. 期末試験（3日間・レスポンス課題提出式）の1回分（100点満点）＋平日発言プラスα点数で総合的に判定する。
2. 平日試験（レスポンス課題提出式）の中身である、内容・要領・期間・時間等について、大学の期末試験期間中（第16週）にポータルシステムとTeamsの両方に提示する。平日、真面目に授業を履修しないと、簡単に期末試験を完成できない。
ネット等の不具合対策を意圖したうえ、余裕をもって、△切迫で期間中に提出してください。
ネット等の切迫に、ネットなど不具合の可能性もあるので、時間の余裕をもって提出してください。
△切迫の提出は認めない。
レスポンス以外での提出は認めない。
土日休日等、返信が遅くなり、次の履修日にする。

履修にあたっての注意・助言他

- 先着から以下の意見を是非参考してください！
1. 「五感に磨ける画期的な授業」
ー 充実した内容、知事や校長の方で知識と能力を身につけられる！
 2. 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たちが生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すぐに実行する。優良企業だと思います。モチベーションがとても高く維持できています」
ー 一方的な授業ではなく、交流の場でもある！
 3. 「いま4年生がもっと早くこの授業に出会いたかった」
ー 知識を得るものだけではなく、知識を獲得する姿勢と方法を学ぶべき
 4. 「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」
ー 単位と知識能力を両立して楽しく取る

教科書

使用しない。				

参考図書

決定版 大國の興亡—1500年から2000年までの経済の変遷と軍事戦争(上下巻)	ポール・ケネディ	草思社：決定版 (1993/2/1) 452ページ	971	4794204914
米中戦争前夜—新日大國を衝突させる歴史的法則と回避のシナリオ	グレアム・アリソン(著)、船橋 洋一・序文(その他)、藤原 朝子(翻訳)	ダイヤモンド社 (2017/11/2) 424	2200	4478103313
文明の衝突	サミュエル・ハンチントン(著)、鈴木 主税(翻訳)	集英社 (1996/6/26) 560ページ	3080	4087732924

その他

1. 毎回、前回課題へのフィードバックや振り返りを解説する。優れた提出内容や改善してほしい内容等を、マーカーや色付けで強調して表彰や注意喚起をする。モチベーションアップにつながるだろう。
2. 授業プリント、「先生説明版」と「映像ビデオ版」等は配布資料は必ず各自Teams専用グループからアクセス・ダウンロード・印刷等を済ませて教室まで持ってきてください。
- 厳重注意：本授業はリウカポータルには、最初の授業連絡通知と最後の期末試験通知の2回だけを提示するが、その以外の授業資料や授業連絡・レスポンス課題提出等の連絡を一切提示しない。
代わりに資料・通知・レスポンス課題提出等の連絡は、Teams専用グループのチャット機能を利用する。
不明の場合、Teams専用グループのチャット機能が、大学のメールでの相談かを利用してください。
- 授業はPPT・プリント資料、映像、討論で進む。プリントには穴埋めが相当数入っている。授業中のPPTを確認しながら記入してください。

授業計画

次世代「Society 5.0」に構想転換を急ぐ日本、「インダストリー4.0」を提唱唱したドイツ、「未来に向けた産業政策・戦略」の英国や米国、「中国製造2025」の中国など、様々な国々のグローバル競争の過去・現在・未来を優しく紹介します。日々ひしめきあひ熾然たるビジネス競争を繰り広げるアップル、トヨタ、ファウーエー等々も登場し、国・産業・企業の3レベルから大戦略を持ち、国際経営に備える知識・能力・思考力を身につけて成長していきましょう。

- 1 授業内容に注意。注：()内はビデオの内容。
- 2 インド・パキスタン：進め方・出る・中絶 (56年中国の最前線)
- 3 クロバト戦争 (ユーゴスラビア) 南の勝利 北欧・東欧・イタリヤ
- 4 中東戦争 (イスラエル) 勝利 中東戦争 (イスラエル) 勝利
- 5 中国の勝利 (中国) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 6 中国の勝利 (中国) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 7 中国の勝利 (中国) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 8 ベトナム戦争 (ベトナム) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 9 ベトナム戦争 (ベトナム) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 10 韓国、台湾 (日本) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 11 日本と中国 (中国) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 12 フランスとドイツ (中国) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 13 日本とアメリカ (中国) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 14 日本と中国 (中国) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利
- 15 まえめ (中国) 勝利 中国の勝利 (中国) 勝利

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
○ウ:ディスカッション、ディベート	○エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実演、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 文科省の大学設置基準第21条2より、2単位の授業は90時間（以上）の学修を必要としている。
15回で割ると毎回6時間の学修時間は必要である。
2. 毎回、90分の授業時間を2時間とみなされている。
毎回、授業外の予習と復習の時間は4時間が必要である。
3. 毎回、教員の講義とともに、授業専用Teamsグループのプリント資料・ビデオ資料をも生かして、予習・学習・復習をしてください。
4. 予習の一助として、初回目的是、「米中5Gについて考えて、授業中1分発表できる」という質問に答えられるように、予習準備をしてください。
復習の一助として、「今回・前回の講義の内容やキーワードについてしっかりと理解して、場合によって自己発表・勉強もしましょう。どうしてもわからなく知りたした場合、メールなどで担当先生へ連絡をしてください。」
5. 先生とメール等とのやり取りする際、正しいマナーを十分意識し、「李先生」の宛先呼称・敬語表現、最後まで返信など、礼正しく言動を取ってください。
6. 毎回、「知識は力になる」ことを、実感できる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1. 企業や組織の国際競争・グローバル競争の仕組みを自ら主体的な立場からの確に理解できる。共通DP及び業界固有・問題探索・課題提案能力のDPに貢献できる。
2. 身に付けた知識・能力・資格等を生かして、組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きあがる。自ら考えと理解のDPに貢献できる。
3. グローバル競争の軌跡と変革に実証がある。現地のニーズにも適応し、柔軟で俊敏に大規模な視野と能力を持つことができる。グローバル分析や改善・解決のDPに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義を聞くだけではなく、考えてグループワークで喋ったり、発言をする。
映像を見るだけではなく、メモしたり考えたり、レスポンスに回答を出し、発言をする。

1. 質問やクイズなど、積極的に考えて、発言をしてください。
2. 他人の発言を聞いて、自分も発言できるように授業に臨んでください。
3. 先進的なレスポンスなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。

通り甲斐のある授業（そうか！これこそは大学らしい授業だ！）。

静かで受講できる環境（私語ほとんどない！）。

退屈ではない（退屈の時間さえもない！）。

みんな一緒に互いに勉強する（自力・他力、皆の力を感じよう！）。